



An aerial photograph of a city area. A river flows horizontally across the upper portion of the image. To the left of the river is a large stadium with a red track and a green field. To the right of the river is a designated site, outlined in white, which contains a green field and some buildings. The rest of the image shows a dense urban area with many small buildings and streets.

史跡鴻臚館跡指定範囲

1 章

第6章 事業計画



6.1 - 段階的整備計画

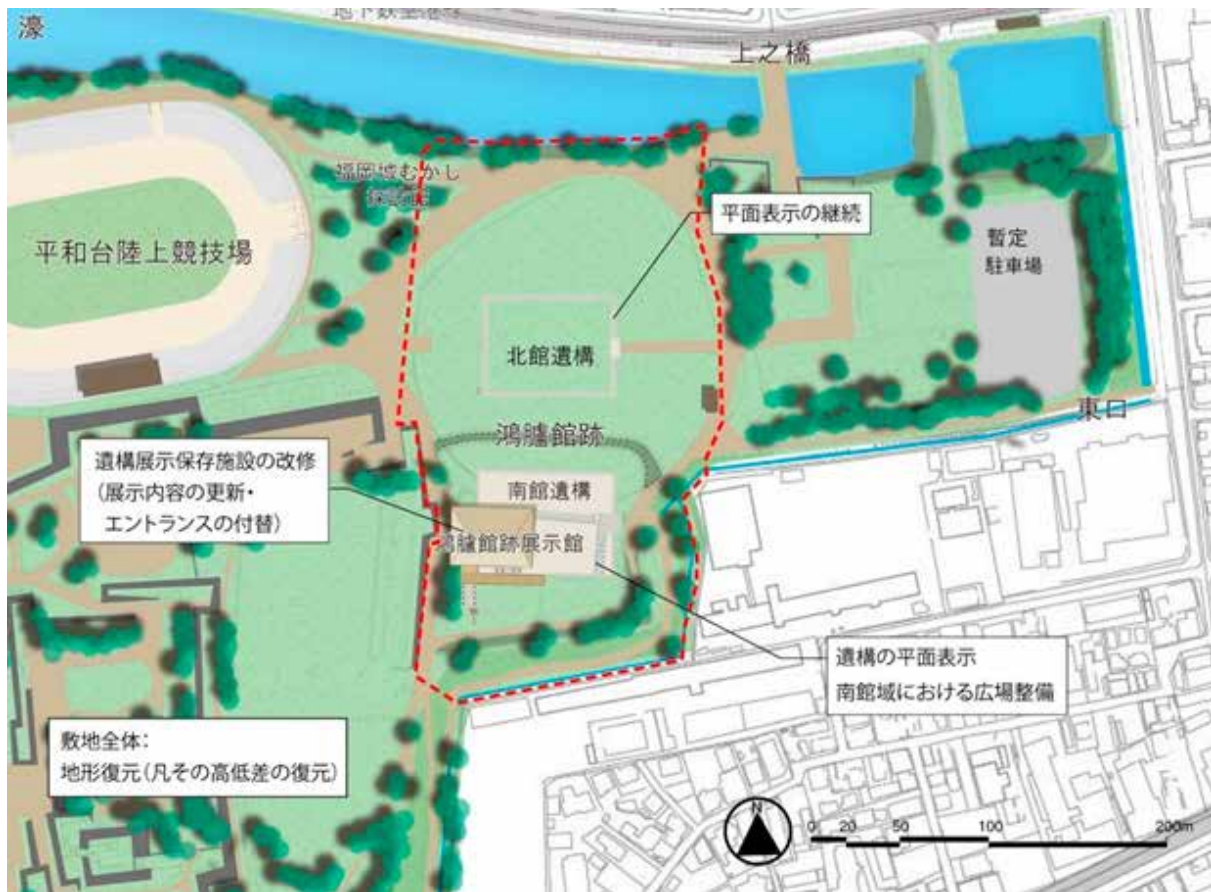
本計画においては、各整備内容を概ね**短期(計画策定後3年間)**、**中期(短期終了後7年間)**、**長期(中期終了以降)**の三期に設定しました。以下にその詳細なスケジュールを示します。

なお、中期整備以後に、整備の進捗状況や社会状況を見据えながら、新たな調査研究や公開活用成果を盛り込んだ整備計画を検討していきます。

整備スケジュール案

主要項目	取組項目	短期(3年)	中期(7年)	長期
1) ソフト事業の展開	体験プログラムの提供			
	AR、VRの導入			
	ボランティアガイドの支援			
	大規模イベントの企画・運営			
	歴史系イベントの企画・運営			
2) 展示館の改築	展示館建物の改修			
	展示内容のリニューアル			
3) 屋外の展示等の整備	地形復元(南館域の一体化等)			
	平面表示の整備			
	サイン・案内板の整備			
	地形復元(北館域、外郭域等)			
	中央谷・中央土橋の復元			
	北館東門及び塀の復元			
4) ガイダンス機能の整備	セントラルパーク共通ガイダンス設置			
5) 発掘調査	高等裁判所跡地周辺(VI期)の発掘調査			
	舞鶴球技場周辺(VII期)の発掘調査			
概算事業費(百万円)		247	414	

※上記スケジュールおよび概算事業費については、今後の諸状況の変化により変更となる場合がある



基本計画図(短・中期整備)



基本計画図(長期整備)

6.2 - 事業推進のための取組

(1) 鴻臚館の全容解明に向けた調査研究

鴻臚館の全容解明に向けた**継続的な調査研究**は欠かせないものであり、計画に沿った調査の実施とその成果を整備へ反映していくことに努めます。

また、女原瓦窯跡、斜ヶ浦瓦窯跡、海の中道遺跡などの関連史跡・遺跡は、鴻臚館跡と一体的な保存・活用を図る必要があり、それらの保存と価値の把握についても取り組みます。

(2) 中期整備後の継続的な整備の推進

中期整備後の整備計画については、調査研究や公開活用の成果を踏まえ、基本構想に掲げる「福岡市のシンボルとして、市民が憩い、誇りを感じる史跡へ」という将来像の実現のために**復元整備や公開活用の向上**などを検討していきます。

(3) 一体的な管理運営に向けた庁内連携体制の確立

鴻臚館跡については、文化・観光・交通といった様々な要素を複合的に考えていく必要があります。現在も公園部局や観光部局との連携が図られていますが、庁内での連携体制を引き続き強化していくとともに、将来的には公園が**一体となった管理運営**が可能となるよう、体制についての検討を行っていきます。

(4) 調査研究の進捗に応じた整備段階における効果的な活用

鴻臚館跡の全容解明に向けた調査研究は、発掘調査の進捗に合わせて今後も継続して進められます。全域の調査が終了するまで、また全容が解明されるまで整備内容が限定される側面もあるため、整備の初期段階においては、広場としての活用や民間活力の導入を通して、**市民に幅広く利用**してもらうことを目指し、調査研究の進捗に従って学術的視点を強化していく等、効果的な整備活用を行っていきます。

(5) 市民と一体となった整備の推進

事業推進のためには、市民をはじめとする多様な推進主体の獲得が必要となります。そのための手法として、民間や個人を巻き込んだ資金調達の仕組みやサポーター制度等が有効です。こうした取組を通して、資金調達のみではなく、民間事業者や個人が主体的に整備や事業にかかわっていくことで、**史跡への誇りや愛着**を醸成し、継続的な利用を促していきます。

(6) 近隣・関係市町との観光面での連携

福岡市では、(公財)福岡観光コンベンションビューローが中心となり、国際会議も含めた学会・会議等の誘致を積極的に行っています。それらのエクスカージョンの場として、市内の観光名所や九州各県へのツアーが推進されていますが、今後は、大宰府等の古代官道を通した南北間のつながり、世界文化遺産登録となった宗像市・福津市の古代遺跡との東西間のつながりを重視し、観光パッケージ等の収益事業を通して相互に来訪者を誘導する仕組みづくりを行っていくことが必要です。

6.3 - 整備イメージ



短・中期整備イメージ(地形の一部復元と展示館)



長期整備イメージ(中央谷・中央土橋・北館東門の復元、北館塀の一部復元)



参考資料

1 策定の流れ

平成27年8月6日

「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」策定に係る第1回鴻臚館跡整備検討委員会

主な検討内容：国史跡鴻臚館跡整備基本計画策定について

①策定スケジュールと計画構成案について ②計画の体系について

平成27年12月16日

「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」策定に係る第2回鴻臚館跡整備検討委員会

主な検討内容：鴻臚館跡整備基本計画構成案の検討

①基本方針 ②基本計画 ③公開・活用計画

平成28年7月22日

「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」策定に係る第3回鴻臚館跡整備検討委員会

主な検討内容：鴻臚館跡整備基本計画構成案の検討

①公開・活用計画 ②管理運営計画 ③事業計画

平成31年2月6日

「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」策定に係る第4回鴻臚館跡整備検討委員会

主な検討内容：鴻臚館跡整備基本計画案の取りまとめ

2 鴻臚館跡検討委員会

鴻臚館跡整備検討委員会名簿（五十音順）

氏 名	役職名	専門
岩永 省三	九州大学総合研究博物館教授	考古学
◎ 小田 富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
包清 博之	九州大学大学院芸術工学研究院教授	環境設計学
狩野 久	前京都橘女子大学教授	国史学
河原 純之	前川村学園女子大学教授	考古学
坂上 康俊	九州大学大学院人文科学研究院教授	国史学
○ 佐藤 信	東京大学名誉教授	国史学
澤村 明	新潟大学経済学部教授	文化経済学
杉本 正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
鈴木 嘉吉	元奈良国立文化財研究所所長	建築史
箱崎 和久	奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長	建築史
松村 恵司	奈良文化財研究所所長	考古学

◎委員長 ○副委員長

国史跡鴻臚館跡整備基本計画

編集・発行 福岡市

福岡市中央区天神1丁目8-1

2019（平成31）年3月

